

25年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 11月20日～ 12月10日

2. 調査実施方法

全国の合板工場-1に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は6社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 国産原木入荷動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
入荷動向	スギ	△ 60.0	△ 60.0	△ 20.0
	ヒノキ	△ 66.7	△ 66.7	△ 66.7
	カラマツ	△ 20.0	△ 40.0	△ 20.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	50.0
消費動向	スギ	0.0	0.0	△ 40.0
	ヒノキ	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 80.0	△ 60.0	△ 40.0
	ヒノキ	△ 66.7	△ 66.7	△ 66.7
	カラマツ	△ 40.0	△ 40.0	△ 20.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 50.0	50.0

入荷は、スギ、ヒノキ及びカラマツともに減少傾向で推移、トドマツは12,1月の減少が2月には増加に。
消費はスギが12,1月の横ばいが2月には減少に、ヒノキは減少傾向で推移、カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。
在庫は、スギ、ヒノキ及びカラマツが減少傾向で推移、トドマツは12,1月の減少が2月には増加に。

(2) 合板用原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/12月	26/1月	2月
スギ	60.0	60.0	40.0
ヒノキ	66.7	66.7	66.7
カラマツ	60.0	80.0	80.0
米マツ	100.0	100.0	66.7
北洋カラマツ	75.0	75.0	50.0
その他	-	-	-

原木価格は、全ての樹種において強含み、ないし強保合で推移。

モニターからのコメント

(原木荷動き)

- ・カラマツ、11月同様入荷が遅れ気味、生産に合わせて消費、在庫は入荷遅れ気味で若干減少。
- ・11月入荷も消費量の80%弱しかなかった、12月増量をお願いしているが予定数量は少なめ。消費は年末・年始に工場整備等で工場稼働日が少なく12月、1月は減少する見込み。在庫はスギ入荷が少なく減少見込み、ヒノキは伐採業者に協力願って在庫を減らさないようにしている。
- ・全原木入荷大幅に減少。在庫は今後も不安。
- ・カラマツ・トドマツ原木の入荷が減少。
- ・

(原木価格)

- ・スギ、カラマツ強含み、北洋カラマツここに来て円安基調で強い丸太自体が入ってこない。
- ・米マツ現地価格の上昇。北洋カラマツ季節的要因で上昇。
- ・スギは市場価格が11月より急激に値上がりしているため合板用も価格を合わせていかないと丸太が買えない。ヒノキは量を確保するために値上げせざるを得ない。外材は、産地価格上昇、為替も円安に動いているため値上げ。
- ・全原木価格上昇傾向。
- ・
- ・
- ・

25年12月分 合板工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

4. 調査結果の概要

(1) 生産動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
生産動向	構造用(9mm)	0.0	16.7	16.7
	〃 (12mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	33.3	0.0	0.0
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
出荷動向	構造用(9mm)	0.0	16.7	16.7
	〃 (12mm)	△ 16.7	0.0	0.0
	〃 (15mm)	△ 20.0	0.0	0.0
	〃 (24mm)	16.7	16.7	16.7
	〃 (28mm)	0.0	0.0	0.0
在庫動向	構造用(9mm)	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (12mm)	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (15mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0
	〃 (24mm)	△ 33.3	△ 33.3	△ 33.3
	〃 (28mm)	△ 20.0	△ 20.0	△ 20.0

生産は9mmが12月の横ばいから1,2月増加に、12mm及び15mmは12月の減少が1,2月横ばいに、24mmは12月の増加が1,2月には横ばいに、28mmは横ばいで推移。
 出荷は9mmが12月の横ばいから1,2月増加に、12mm及び15mmは12月の減少が1,2月横ばいに、24mmは増加傾向で推移、28mmは横ばいで推移。
 在庫は全ての品目で減少傾向で推移。

(2) 構造用合板出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/12月	26/1月	2月
構造用(9mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (12mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (15mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (24mm)		16.7	16.7	0.0
〃 (28mm)		16.7	16.7	0.0

価格は全ての品目で12,1月のやや上昇が2月には横ばいに。

モニターからのコメント

(合板荷動き)

- ・生産は工場の都合によりバラツキあり、28mmが減少した分24mmが増加。28mm生産が減少した分、出荷が減少、他品目はほぼ横ばいの出荷。在庫横ばい。
- ・生産は年末年始で減少、中でも厚物生産確保のため9～15mmの生産は更に減少、出荷も減少、厚物は横ばい、在庫は低水準のまま増える状況ない。
- ・通常の生産体制、厚物（ネダノン）が需要増加。出荷は厚物（ネダノン）サネ加工品が多い。在庫は全製品とも少ない。
- ・在庫なく納期に追われた生産である。在庫はない状態がしばらく続きそう。
- ・ラワン主体の生産で針葉樹は少量のため生産、販売は横ばい。

(合板価格)

- ・横ばいながらジリ高になっている。
- ・原木価格の上昇により当月から出荷価格を調整。
- ・原料費コストUP分値上げを希望（期待）している。
- ・品不足更に進んでいる。
- ・当社の製造は1級品のみで、主に1級品指定の物件に使用していただいている。